

【評価】 A:目標を上回る達成 B:目標を達成または概ね達成 C:目標を達成せず D:目標を大きく達成せず

大項目	中項目	小項目	自 己 評 価			学 校 関 係 者 評 価		今後の学校改善に向けて
			小項目評定	中項目評定	現 況	中項目評定	意見・提言等	
I 進んで学びやりとげる子	学習指導の充実	1 教材研究に努め、ICTを積極的に活用するなど、楽しくよくなる授業を進めた。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を楽しく、理解が進むようにタブレットをさらに有効活用した。また、論理的思考を深めるためプログラミングの学習も高学年を中心に先行実施している。 ・全国学力・学習状況調査や学び確認テスト等をもとに、指導方法の工夫、教材開発など学年で相談しながら進めた。 ・国語科研修、特別支援教育研修、体育科研修、救命研修を実施し、指導力・教育力の向上に努めた。 ・和邇小学校ミニマムターゲットを全職員共通理解のもと作成した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを取り入れた学習がたらくさん見られ、子どもの学習意欲も向上している。 ・ミニマムターゲットを作成したことは大変良い。今後の活用に期待する。 ・家庭での学習習慣の定着を意識した保護者や子どもへのアプローチにも取り組んでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も各学年で書く力や作文力を向上させるために目標を設定し向上を図る。 ・算数科の単元テストを分析し、児童個々の学力を把握し、対策を立て、算数の学力向上を図る。 ・ミニマムターゲットのさらなる活用につとめ、子ども達の基礎学力の向上を図る。 ・学力向上に関わる研修や若手教員への指導技術継承を意識した研修・授業研究を計画的に実施する。
		2 基礎学力の定着を目指し指導体制を整え、指導方法の工夫に努めた。	B					
		3 指導力・教育力の向上を目指し、職員研修に努めた。	A					
	読書活動	4 読書の楽しさがわかるよう、教師による読み聞かせや本の紹介などを行った。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・図書ボランティアによる本の整備を行った。 ・お話しによる読み聞かせを今年度も計画通り実施できた。 ・委員会活動で図書室の利用を呼びかけた。 ・児童アンケートをもとに学校図書を購入し図書室を充実させた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・予算があれば図書室の改装であったり、図書の購入をしたりしてよりよい図書室にしていってほしい。 ・朝読書は今後も継続してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度も学級文庫の充実を図る。 ・朝読書の継続と家庭読書の啓発を行う。 ・教師の読み聞かせや縦割り交流による読み聞かせを行う。 ・読書貯金カードを取り組む。 ・和邇図書館、ミッケル号をさらに利用し、図書館利用教育を進める。
		5 読書環境・体制の整備や地域人材等の活用を行った。	A					
	学び合い	6 支持的風土を育てる学級・学年集団づくりを進めた。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学年、学級で目標を立て、支持的風土づくりを進めた。 ・校内研究で、「主体的な学びと伝え合い」を意識した授業改善に取り組んだことで教員の力量を高めた。 ・全職員が公開授業をし、授業研究や教材研究に取り組んだ。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究通信を多数の教員で執筆していることが良い。 ・学び合いのある授業づくりに積極的に取り組んでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団でものごとを成しとげる体験をさせることで支え合うこと、喜び等を味わわせる。 ・ペア学習、グループ学習、討論などを授業の中に取り入れたり、子どもたちが主体的に友だちと深く考えながら課題を解決したりする授業を取り入れる。 ・地域とつながり、地域資源の教材開発を図る。 ・教職員が全員、授業を公開し、指導力向上に努める。
		7 協同する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善に努めた。	A					
		8 学び合いを追求する授業研究や教員研修に取り組んだ。	A					
II 仲良く助け合う	道徳教育・特別活動の充実	9 生命を尊重する心や人権の尊重などの道徳的実践力を育てる指導を工夫した。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・人権の日を月一回設定し、校内放送等を利用して豊かな心を育む教育を実践した。 ・副読本や「わたしたちの道徳」を元に、教材を整備した。 ・道徳の授業参観を今年度も実施した。 ・代表委員会や週1回の係活動を通して、自治的な活動ができてきた。 ・縦割り遊びでは上学年がしっかり計画を立て年間2回、活動に取り組んだ。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・人権の日の取り組みは良いことである。また、放送を使うことで子ども達が集中して話を聞ける。 ・心ないことばを使うことのない人権意識が高い学校を目指してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の教科化に向けて職員の研修を深める。 ・人権の日の取り組みに子どもが関わられるようにする。 ・全職員が1つ以上、道徳の教材を開発、もしくは授業を公開する取り組みを続ける。 ・学級活動や係活動を充実させ、いじめのない楽しい集団づくり、学級づくりを進める。 ・特別活動の計画を整備し、縦割り遊びを学級活動の時間に位置づける。
		10 道徳の授業公開を行い、積極的に資料開発・整備に努めた。	A					
		11 自治的能力を高めるため、学級活動や児童会活動など、発達段階に応じた適切な指導を行った。	A					
	生徒指導の推進	12 「3つのととのえる」に全教職員が一体となって取り組んだ。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「3つのととのえる」は、継続して取り組み、子どもたちの意識が高まった。特にはきものをそろえることができています。 ・毎月実施しているアンケートが有効。すぐに対応するなど活用できている。友だちの良いところを記入することは有効である。関係機関と連携して対応できている。不登校児童に対する連携と職員全体の共通理解がもう少し深められたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ撲滅スローガンの取り組みは良い。 ・いじめは人権侵害の最たるものである。今後も取り組みを継続してほしい。 ・規範意識を高められる指導や啓発に取り組んでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10分間での効率的なそうじのすすめ方についてさらに見直しをすすめる(人数調整黙働、仕事の調整など)。 ・よりよい人間関係を築いていくためにも、子ども達が、場に応じた言葉遣いができるよう、全職員が指導していく。 ・いじめに対する全職員の意識改革や組織的な対応をさらに進める。 ・どのように保護者や関係機関と連携し、すすめているのか問題行動や不登校傾向児童への対応について、全職員で研修し、理解を深めたい。
		13 生徒指導・教育相談体制を確立し、いじめや暴力行為、不登校等の諸課題の早期発見、日常的な予防指導、3公3現の原則に基づいた対応に組織的に取り組んだ。	A					
14 問題行動や不登校傾向児童に対して、保護者・関係機関と連携して取り組めた。		B						

大項目	中項目	小項目		自己評価		学校関係者評価		今後の学校改善に向けて	
				小項目評定	中項目評定	現況	中項目評定		意見・提言等
Ⅱ 仲良く助け合う	特別支援教育の推進	15	組織的・計画的な特別支援教育の体制づくりに努め、児童支援に役立てた。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業・教室掲示物のユニバーサルデザイン化に取り組んだ。 特別支援教育支援員との連携がうまくとれている。個別の指導計画は作成されているものの活用となるとまだ十分とはいえない。 子どもや保護者が安心して相談できるように、S.Cを積極的に活用し教育相談の充実を進めた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 保護者への対応、保護者への支援、保護者の悩みなどを解決できるような研修を開催するのよい。 地域が子どもの特性を知るのも今後重要になってくる。 組織的対応と関係機関等との連携強化を。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援コーディネーターを中心に、個別の指導計画の見直しや特別支援アセスメントを進める。 教育のユニバーサルデザインに今後も取り組む(わかりやすい授業、人間関係づくり) 全職員の特別支援教育の専門性を高め、さらに特別支援教育を組織的、計画的に進めていく。
		16	校内委員会を組織し、支援を要する児童の指導計画を作成し、活用するよう努めた。	B					
		17	関係機関と連携した教育相談体制の充実に努めた。	A					
Ⅲ 健康で大きい子	体力作り	18	たくましい心と体を育てる魅力ある授業改善に努めた。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 体育の職員研修を実施し、子ども達が進んで取り組めるような教材や授業を開発した。 業間持久走、縄跳び大会、大縄跳び大会を実施し、学校全体で体力向上につながる取り組みを行った。 子どもが主体的に運動に関わる授業展開ができるよう、タブレットを使用した学習を実施することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 自然体験学習をとりいれてみてはどうか。例えば琵琶湖でカヌーをしたり冬山を体験したりするなど。 毎日の努力の大切さをわかりやすく指導してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達が自らしたくなるような遊び方を提示したり、環境を整えたりして運動する文化を創造していく。 今後も教職員にアンケートをとり、指導しにくい領域、安全面の配慮を要する領域等を研修する。
		19	運動に親しむ環境づくりや体力づくりに努めた。	A					
		20	体を動かす気持ちよさを体験させ、進んで体を動かそうとする意欲を育てた。	A					
Ⅳ 育ちを支える連携	家庭・地域連携	21	保護者に対して、子育てに対する支援や研修会を行った。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> PTAと協力し、講師を招き研修を実施した。また、学校保健委員会を夏休みに実施し保護者とともに研修した。 本年度はHPを刷新し、多くの方が閲覧できる工夫をした。 PTAの安全対策部と連携し、校内ヒヤリハットマップを作成し、安全な学校づくりに努めた。 5年生の総合的な学習で校区内の安全マップを作成した。 避難訓練を4回実施したりシェイクアウト訓練を実施したりして防災教育の推進に努めた。 わが家のルールづくりに取り組み、家庭教育のあり方や、ルールづくりのきっかけを作った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 防災教育について施設を見学したり、講演にきてもらったりしてもよい。 講演をしてもらう場合は小学生の子ども達にもわかるような人材を選ぶべきである。 保護者・地域への情報発信をさらに充実させてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校から情報発信(HP、学校便り、学年通信等)をさらに充実させていきたい。 本年度からははじめた安全マップを来年度も地域の方やスクールガード等の地域諸団体と連携して取り組んでいく。 「ふれあいルーム」を設け、地域の方や地域諸団体と子ども達がふれあう機会を夏休みに設ける。 わが家のルールづくりに引き続き取り組んでいく。
		22	保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会等実施に努めた。	A					
		23	防災教育の推進と安心・安全な学校づくりを進めた。	A					
	保幼小中連携	24	子どもの校種間交流や教員の出前授業等、積極的な連携に努めた。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 保幼小中連携事業として、音楽会に向けての練習参観(園児)、運動会参加(園児)、1年秋祭りの交流、保育体験、作品展参観(教師)、出前授業、一日入学での1年・5年との交流等、積極的に連携に努めた。 中学校との連携として児童会が比良山麓子ども会議に参加し、子どもの校種間交流をすすめた。 校区研では、部会の活動等に参加し、教職員の交流に努めた。 保幼小の合同研修(心肺蘇生法)を実施した 	A	<ul style="list-style-type: none"> 本年度も秋祭りや運動会、作品展参観などたくさん交流ができた。 園児にとって小学生はあこがれの存在で、今後も交流を続けてほしい。 今後ますます校種間連携が重要と思うのでさらに強化してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 保幼小中連携事業では、行事の取り方を工夫したり、夏季休業を有効利用したりして、研修等を通して連携をさらに進めていく。 中学校区共通で取り組めることや連携を進めていく。
		25	校種間の合同研修会や教育内容等の交流に努めた。	A					
V 満足度	満足度	26	児童は学校に満足している(アンケート結果より)。	B			B	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な目標を設定してその目標に対して達成ができたかどうかを判断し改善につなげていくとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者・地域・学校がそれぞれの良さを生かし合える連携の方法を模索し、よりよい学校づくりに努めたい。

